

水産試験場漁獲情報システムのバージョンアップ

○はじめに

茨城県では、県内沿海における魚介類の漁獲動向を把握するため、1989年（平成元年）より各市場で日々水揚げされる漁獲データを集積する「茨城水試漁獲情報システム」（以下、「旧システム」）を稼働させています。このシステムは、県内各漁協と水産試験場をオンラインで結び、水産試験場でデータを受信・集積するものです。

集積したデータは、資源評価・解析などの他、魚種別・銘柄別での漁獲動向把握やTAC魚種管理などのデータベースとして活用しています。

さらに、海洋環境の変化や資源変動などにより、水揚げされる魚介類に変化が見られており、水産試験場では長年蓄積されたデータから、長期的な変化についても解析に取り組んでいます。

○システムのバージョンアップについて

旧システムは導入から30年近くが経過しており、システムの故障や災害等で過去の漁獲データが消失してしまった場合、データの復旧が困難になる恐れが生じていました。

そこで、2018年4月より漁業情報サービスセンター（JAFIC）が開発した「資源管理システム」（以下、「新システム」）を導入しました。このシステムは、収集した漁獲データを茨城県庁内のサーバーに保管することで、水産試験場端末に不具合が生じた場合でもデータが保護されるようになっていきます（図1）。

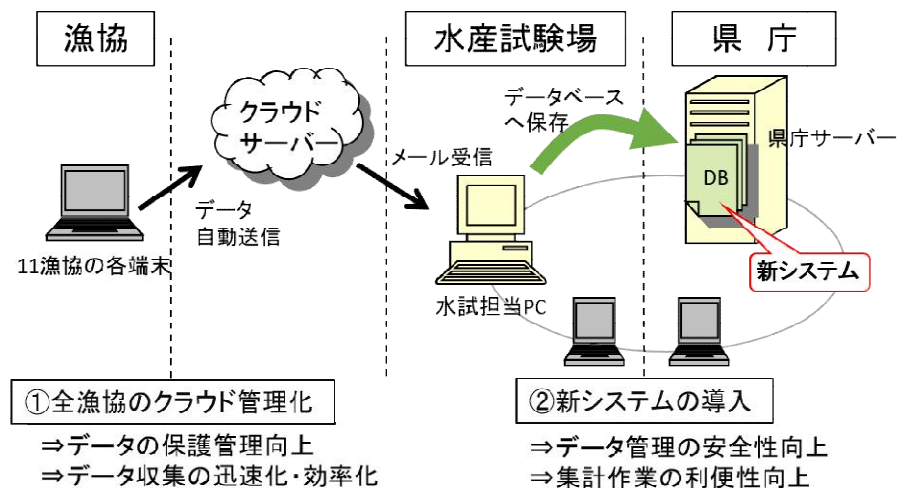


図1 資源管理システムイメージ

○資源管理システムの今後について

水産試験場では新システムの運用に併せて旧システム方式による確認作業を実施しています。各漁協から受信するデータの取り込みに不具合はないか、集計時に双方のシステムでズレが生じていないか、データを見比べながら確認しています。

システムは新しくなりましたが、漁獲データの集積は漁協職員の皆様のデータ入力作業で成り立っており、大変感謝しております。これまでと同様にお手数をおかけすることとなりますが、収集した漁獲データについては、引き続き研究資料・行政資料として活用して参りますので、今後ともご協力をお願いいたします。

（回遊性資源部 鈴木）